

上尾市水道事業では、大規模地震や風水害への備えとして、災害対応に特化した「実動班」を令和2年3月に編成いたしました。

「実動班」では、大規模災害を想定した各種の講習会や訓練を重ねることで、迅速な災害対応ができる職員を育成しています。

今回の活動報告では、令和5年8月、9月に行った訓練内容について報告します。

材料検査の方法及びポイントについて訓練を実施しました

令和5年8月3日（木）におきまして、**水道工事を行う際に必要となる管材料の検査を想定して、訓練**を実施いたしました。

具体的には、請負業者から器材使用願いと材料検査願いが提出され、器材使用願いに記載されている規格や製造メーカー、材料の個数を材料検査願いと突合せながら確認を行う訓練となります。



訓練開始
全体説明

01

【講師より、材料検査方法についての説明】

- ・材料は揃ったものから検査することになり、検査した個数と日付を記載しておきます。
- ・後日搬入された材料に関しては、その都度検査を行います。
- ・材料の保管場所は、基本会社の敷地内となり、ゴム製品については直接日光の当たらない場所に保管しておきます。
- ・管材はブルーシートで覆い、管受口に砂等が入らないよう封をしておきます。

【実際に管材料を見ながらの説明】

- ・直管については、受口に刻印があり、水協マーク、年号、口径、管種が記載されています。異形管については、切管できないよう、胴中に刻印されています。
- ・受口の内部に触れて、塗装のザラつきがないか、大きなキズはないか目視で確認を行います。外部の軽いキズについては補修スプレーで補修することができます。
- ・ゴム製品については、引っ張り気味に外観を確認し、クラックがないか確認を行います。



02



弁体が上がりきっている状態

03



開閉動作

04

- ・仕切弁、消火栓については、開閉動作が手で回る硬さが確認を行います。
- ・必ず全開にして、弁体が綺麗に上がりきっているか、下に飛び出していないかも確認を行います。

テストメーター使用訓練

令和5年8月17日（木）におきまして、**テストメーターを使用し、正常な検針ができている水道メーターであるのか確認を行うための訓練**を実施いたしました。

各ご家庭に設置されてある水道メーターで、いつも通りの水使用で、漏水していないのに異常な数値が出る等の問題に対し、計量法に基づき適切な検針を行うため、テストメーターを用いた訓練を実施しました。



総勢17名の実動班が訓練を実施しました。



【テストメーター設置状況】

・各ご家庭の蛇口に設置することもできます。

【訓練状況】

・テストメーターを用いて、点検したい水道メーターとテストメーターを連結させ、同じ水量を流した時に生じる指針の誤差を読み取り、正常であるか判断することができます。



応急給水訓練（HIVPの接合）を実施しました

令和5年9月14日（木）、21（木）におきまして、**応急給水や給水の復旧で、使用が想定されるHIVP管※の接合**を実施いたしました。

事故や災害等が発生した際、給水装置工事事業者や応援水道事業体への確かな指示を行うため、また緊急時には、自ら応急給水を行うため、HIVP管の接合訓練を実施しました。

具体的には、HIVP管を所定の長さに切断、接着剤を塗布し、ソケットやMCスーパ（継手）を用いて接合し、応急給水栓を作製する訓練となります。

※耐衝撃硬質ポリ塩化ビニル管



【講師より全体の流れについて説明】

【接着剤の塗布についての説明】



【接合の実演】

応急給水訓練（HIVP接合）の様子

総勢17名の実動班が訓練を実施しました。



【1. 寸法出し】



【2. 切断】



【3. 接着剤の塗布】



【4. 接着剤の塗布後の接合】



【5. MCスーパーユニオンの接合】